

# 令和 4年度 園評価書

園番号

53 園名 由比中央こども園

## I 経営の重点に関わること

評価段階 (A : よくできている B : 概ねできている、C : あまりできていない、D : できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園評価	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組)
心も体も元気な子	「いいね」「もっとやってみよう」がいっぱい	喜んで体を動かし全身を使って遊ぶ	○新たに築山やロープブランコを作ったことで、友達と誘い合って遊んでいる。また、可動用具を自分達で用意し、組み立て楽しんで体を動かしていた	A	A	・友達と誘い合い体を動かして遊んでいた ・指標通り、みんなで走り回って遊んでいた ・子どもが興味関心を持ち、体が突き動かされる環境である	・引き続き、発達に合わせた巧技台やはしごを使ったサーキット遊びを子ども達と一緒に考えて作り、様々な体の動きを取り入れた遊びを工夫し取り入れていきたい
		自分の思いを相手に伝え、相手の思いに気付く	○自分の思いを言葉にして相手に伝える子が増えてきている △一方で、相手の思いに気付くことに関しては、個人差があり、思いを受け入れられない子もいる	B	A	・同世代の子ども達と過ごす中で、人の思いに気付いていく、それぞれに合った関りを先生方がしている ・個人差がある中で、自分の思いを伝えられるが相手の思いを知ることは小中学校になっても課題である。教育の現場ではずっと続けなければならない。子どもの評価というより、教諭の指導のあり方の評価で考えていければ良い	・子どもの思いを保育教諭が肯定的に受け止める ・自分とは違う思いもあるということを知らせ、子どもが自分で考えたり、気持ちを整理したりする時間をもつようにする
		自分なりに試したり工夫したりして遊ぶ	○保育教諭が子どもと一緒に楽しみながら、子どもの興味・関心、発達に合わせ、自由に使ったり、選んだり出来る環境を準備したことで、様々な素材を使いながら、自分なりに試したり、工夫したりして遊んでいる	A	A	・色々な遊具がある中、友達と工夫しながら遊んでいる ・子どもにまずは「やってみよう」と体験させ、失敗する経験も大事 ・鬼退治に向けての作戦、取り組みみんなで(異年齢、保育教諭)一緒に楽しめており「いいなあ」と思いました	・引き続き、歳児の発達をおさえそれに合わせた素材や用具を用意する ・保育教諭と一緒に遊びながら、子どもの姿を認めていく事で自信につながり、さらに試したり工夫したりする姿が多く見られるようにしていく

## II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園評価	自己評価	関係者評価	評価	改善策 (来年度の具体的な取組)
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	遊びや生活を通して異年齢で関わり、思いやりの気持ちを育てる	○異年齢児が園庭遊びや行事、異年齢ペアを作って一緒に体操を踊る等を通して、年下児が憧れをもち真似したり、年上児が年下児にやり方を教えたりと思いやりの気持ちが育っている。コロナ対策をしながら出来ることを考え実施できた	A	A	・鬼退治の取り組みで年長が砂場で落とし穴を掘っていた所、2歳児が来て一緒に穴を掘ろうとした際「あぶないよ」と、優しく声を掛けたりする場面や異年齢で曲に合わせて踊る姿から憧れや真似をする姿が見られた ・北小学校では小学6年生と1年生の縦のペアがあり、社会に出たらバラバラの年代で過ごしている。慣れていければと感じた ・子ども達は、人と人と関わり、人間関係の土台を育んでいる	・引き続きコロナ対策を続けながらも、異年齢で関わる中で育つものがあると願い、異年齢交流を大切にしていきたい
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	一人一人の生活リズムを大切に、安心して過ごせるようにする	○健康チェック表を活用しながら家庭での様子を丁寧に聞き、その日の体調や生活リズムに応じて活動を考えたり、保護者に日中の様子を連絡する等、配慮することで安心して過ごせた	A	A	・検温、嘔吐、鼻水など、家庭での体調の様子がわかる健康チェック表は良い ・園と家庭との連携が優先順位の上位にあることは安心につながる	・今後も、毎朝の健康チェックを行い、一人一人の体調を把握する。また、保育教諭間で情報を共有し、安心して過ごすことが出来るよう対応していく
	(3)環境を通して行う教育及び保育	子どもの「もっとやってみよう」の思いを見取り環境づくりをする	○夕方の打ち合わせや園内研修などの保育の語り合いの中で、各クラスがどんな事を楽しんでいるか、迷っているか等を伝え合う事で、子どもの姿を共有したり、環境について話し合ったりすることで、次につながる環境を作っていくことができた	A	A	・環境、遊びの場が豊かになっていると感じられる ・職員間の保育の質の向上を図り、個に頼らない組織体制で取り組んで欲しい	・子どもの興味関心を見取って環境づくりをしてきた事は継続して行っていく
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	安全に気を付けて行動する	○毎月、様々な災害の想定で訓練を行うことで、子ども達も毎回危機感をもって取り組み、自分の身の守り方が身につけてきている	A	A	・我が子が「今日避難訓練があったよ」と様子を伝えてくれる。避難、防犯意識の基礎の為に取り組んで欲しい。 ・職員が危機感をもって様々な想定を考え細かく用意した方が良い。繰り返し継続して行って欲しい	・今後も訓練で出た反省を職員全員が周知、共有し、訓練の際にその反省が活かされるように取り組んでいく
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	食べることを楽しみ、食べ物への興味、関心をもつ	○毎月の食育の日に、げんキッズや食物の消化に関するエプロンシアター等の取り組みを通して、食物が体にパワーを与える事や、食物が体中に入った後の行方について学んだり、栽培、収穫、クッキングの体験を通して、食事への関心が高まり毎日の給食を楽しみにしている	A	A	・さつまいも堀り、みかん狩りの体験等、日々関心を持つ取り組みをしている。給食のサンプルを親子で降園時楽しみにしている ・みんなで給食を食べ、楽しかった美味しさを食への関心、意欲に繋げている ・身についた食習慣を変えていくことは難しいが、食習慣は家庭が大事であり、保護者へのアプローチが大事である。家庭教育を引き続き行ってほしい	・偏食だったり、食に興味・関心が持たにくい子ども達もいるので、今後は保護者へのアプローチを考え、親子で共に関心が持てるようにする
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	職員が同じ思いでその子の発達課題や支援方法について理解し支援していく	○職員会議やサポートプラン会議を通して、支援児の発達課題を共通理解し、統一された支援方法で関わる事ができた。手立てを行った事で支援児の姿に変化が見られた時の発信を行い、子どもの様子を共有して支援できている	A	A	・個々の特別支援は、発達、成長の度合いによって違う。保護者としても、子どもの発達に対してどう理解していくか難しい部分もある。園からのアプローチも引き続きお願いしたい。 ・保育教諭と保護者の信頼関係が深ければ「うちの子こうなんです」と自分から打ち明けてくる。逆に信頼関係がなければ一方的になってしまいがちで受け入れられないこともある。信頼関係がやはり大事となる。成長過程でどうか、長いスパンで見てもその都度子どもの様子を職員間で共有することが大事。一番困るのは「困った」で終わること。アクションをもつことが大事	・引き続き、定期的に職員会議やサポートプラン作成会議をもち、様々な視点からの意見交換をして、支援方法を共有し、統一した支援を行っていく
5 組織運営	(1)組織体制の充実	自分の分掌に責任をもち、企画を立て職員で連携して行う	△分掌リーダーを中心に担当が自分の仕事に責任をもち、企画や準備を進め取り組めた事もあったが、発信不足で一部の担当者のみで実践したことがあった	B	B	・人が少なくなったり、新しい体制になったりして、業務の難しさがある中、みんなで協力し合って行って欲しい ・先生方の難しさはわかり、昔の方が余裕があるように見えた。今は文章を書くのもまとめるのも多く業務の大変さを感じる ・業務のどこに優先順位をもつかが大事。職員の良意に頼ると不安定になる。業務を時間内に行うのも社会人の継続的な課題でもあり、若手育成もある	・各分掌は進捗状況をその都度発信する。また、他の職員は「何か手伝える事がないか」と声を掛け、職員同士で協力し修正しながら進めていく
6 研修	(1)研修体制の充実	園内研修で子どもの思いをかなえる環境づくりについて手だての有効性を検証し全職員で取り組む	○園内研修を行ってきたことで、日々の保育の中で、子どもの言動や表情から思いを探り、見取る事で思いをかなえる環境づくりにつながると学んだ。見取りをすることで職員の意識が高まり、環境に活かす事ができている	A	A	・今後もこの通りで、環境づくりを行って行ってほしい ・刺激し合いながら研修を進めて行って欲しい ・個々に対応できる環境は先生がたの努力である	・次年度も各学年、公開保育を実施し、子ども理解を深めていく。園内研修を通して、職員間で子どもの発達をふまえた具体的な援助、環境作りを考え今後も学び合っていく
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	発達に必要な体験が得られるように教材研究を行い、環境を用意している	○子どもの発達や興味関心、現状をふまえて話し合い、教材研究や環境をその都度作り変え、工夫し用意できた	A	A	・様々な物を用意し保育を行っているのがわかる ・先生方が牛乳パックで作った椅子等、様々な所に手作りの考えて作った教材があるのを目にする ・子どもの「やってみよう」に応える場面にプロフェッショナルを感じる。今後、子どもの想定外に対応する関りを続けて行って欲しい	・今後も子どもが「やってみよう」と職員が子どもに経験させたい事を発信し、他の学年と照らし合わせながら、発達に合わせた教材研究や環境構成を行っていく
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	保護者と育ちの共有をしたり悩みや相談に応じたりし子育てを一緒に楽しむ	○送迎時のやりとりや、懇談会、面談等直接保護者と話したり、連絡ノート、ドキュメンテーション等を活用したりする等、子どもの様子や育ちについて保護者と共有することが出来た	A	A	・2月の園だよりにノーメディアデーへの取り組みが掲載されており、自身も親としてハッとしたり。メディアから離れ、子どもと体を使って遊ぶ方法を学んだ ・毎日、送迎時に保護者と話す際の対応が大事である。信頼関係を築いて行って欲しい ・セーフティネット(安心、安全のしくみ)の充実、困った時に安心できる園になって欲しい	・引き続き、保護者とのコミュニケーションを大事にし、子どもの成長と一緒に見守っていく。また、迎えの時にドキュメンテーションやクラスボードの掲示があることを伝え目を通してもらるようにしていく。
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	近隣のこども園や小学校との交流を深める	○今年度は由比こども園との交流を日々の保育の中で行ったり、由比小学校へ図書館体験に行ったり、小学校養護教諭による保健指導や体験入学の企画を立てたりと、昨年度よりも交流が深まった	A	A	・子どもが少なくなると、地域とのやりとりが重要となる。Withコロナの時代、交流を独断では決められない中で、地域と共に進めて行って欲しい。小学校側からも園の方に来てもらったらどうか ・小学校と共に取り組んで行きましょう ・始まった所なので継続して行っていく	・由比こども園の実態に合わせて、交流がもてるよう進めていく。小学校とは、職員同士の交流がもてるようにしていきたい
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	地域の文化や自然、特産物等を見たり聞いたりして地域を学ぶ体験、経験をする	○花まつりに参加したり、さつまいも堀りをしたり、自然学習指導員の方を招いて遠足に出掛けたりと、地域の文化や自然に触れ、交流することができ、地域に関心をもち学ぶ事ができた	A	A	・地域とのやり取りが大事。由比の方は「困ったよ」「こういう事をしたいよ」と声をかけると助けてくれる。何とかしてくれる。どんどん頼るとよい ・近隣の地域との連携は見えにくいところがある ・地域に出掛け、どんな体験、体感する経験を積んでほしい	・職員が地域の行事や取り組みに関心を持ち、子ども達と共に、地域との交流、体験を楽しむように計画、連携していく ・保護者アンケートの園と近隣の地域との連携の項目のパーセンテージが低かったため、地域のつながりを保護者にも発信する